



ある書込みのこと

教育学部教授 狩 野 陽

それは昭和20年代の半ばの初夏だったと思う。そのころ図書館は農学部北東にあり、白堊と煉瓦の小さい建物が軒を重ねて連なり、屋根は傷み壁は落剥しかけていた。法文学部が誕生して数年を経ていたが、蔵書はとぼしく、求める書物に出会うのは稀であった。この図書館で、私は、あらかじめ読む気はないが、そこにはある書物を片端から読む習慣を始めた。それは、どこか当時の不足な食料に処する世の人の態度に似ていた。

その一冊は、白いマスクをした血色すぐれぬ職員の積上げてくれた書籍の間にあった。背は褪せ不揃いな小口が塵焼けた本は「超人の福音、ニイチェ」とあり、リシタンベルジェ著の英訳1910年刊本だった。ニイチェの著作でえていた私の理解とは異なるニイチェ像が描かれ、世俗的にみえた。随所に、多くは英文で赤の書込みがあり、この本の読み手はニイチェに初めて、beer-swillingに強飲と註記するのをみると下戸の人らしい。だが読むにつれ、この読み手が尋常でない感受性をもち、ニイチェと鋭く対決するだけでなく、自らを強靱に貫いているのがわかった。ニイチェの資性と力能を賛美する本文に英文で挿記するという「欠くるは、ただ信仰のみ、そはいかに大なる欠如ぞや」と。暫くして表を翻し、見返しにKanzō Uchimura, Feb. 12, 1917, Tokioとまろやかな字体で記されているのを見出した。この書は、ニイチェと内村さんの精神の格闘の戦場だった。キリスト教の聖職者が弱者の擁護のため弱者の武器たる虚偽と欺瞞を手管とし怨恨を操ったという本文にたいし、歴史の大曲解と記し、否！ 全てキリスト教の誤解だ、狂的だと激しい反撥の書込みの続くなかで、ひとつ、ニイチェの言葉が朱線で囲まれてあった。「私は本能から周囲の人間や集団が頹廃し、周囲の学説や信念が死せる原理にすぎないとわかる。私が生命の原理を体現し、私と対立するものが死の原理を現わすのが真実とすれば、勝利は疑いなく私のものだ。逆ならば、倒れるのは、まさに私だ。私が望むのは、唯一つ、the triumph of lifeである。かくて私は勝利も敗北も享受しうる。このほかはとるに足らない」この余白に内村さんは「誠に」と大きく朱書し、triumph of lifeに、太い朱線を引いた。末尾に1917年2月16日読了、いたく興味深し、だがニイチェに圧倒されはせぬと記してある。内村文庫に蔵するニイチェ本は4冊、ともに熟読の跡がある。

私は一気に本書を読んだ。ニイチェと内村さんの由縁からではない。まぎれもない人間の接触のさ中に没入して稠密な時が過ぎた。今、稿のため書は机上にある。脳裡の書より、書は古び書込みも褪めたが、書庫の一隅で、永く感動を誘い続けるだろう。

◆ 会 議

第116回 図書館委員会

<と き 昭和59年5月28日(月)>
<と ころ 百年記念会館大会議室>

議 題

1. 昭和58年度決算について
2. 昭和59年度予算(案)について
3. 昭和59年度図書資料(大型コレクション)の収書計画について
4. 学内共同利用逐次刊行物叢書類について
5. 増築に伴う配架計画について

第117回 図書館委員会

<と き 昭和59年6月25日(月)>
<と ころ 百年記念会館大会議室>

議 題

1. 昭和59年度予算(案)について

第79回 教養分館委員会

<と き 昭和59年7月6日(金)>
<と ころ 教養分館会議室>

議 題

1. 北海道大学附属図書館教養分館利用内規第11条第5項について
2. 昭和58年度図書費決算について
3. 昭和59年度図書費予算(案)について
4. 昭和59年度教官指定図書の選定について
5. その他

第80回 教養分館委員会

<と き 昭和59年8月8日(水)>
<と ころ 教養分館会議室>

議 題

1. 昭和59年度“参考図書”及び“視聴覚資料”の選定について
2. その他

全学図書(担当)掛長会議

<と き 昭和59年6月22日(金)>
<と ころ 教養分館視聴覚室>

議 題

1. 会計検査院実地検査について
2. 図書業務電算化の体制について
3. 「楡蔭」編集委員について

第31回 国立大学図書館協議会総会

本年度の国立大学図書館協議会総会は、中国四国地区が担当し、松山市(当番館愛媛大学附属図書館)において、6月14・15の両日にわたって行なわれた。参加者等は96大学216名で、文部省からは情報図書館課長、専門員、大学図書館係長の3名が列席された。

議事等は次のとおりである。

○協議事項

- ①理事監事選出, ②調査研究班について, ③大学図書館国際連絡委員・国公立大学図書館協力委員選出,
④その他

○研究集会

テーマ： 文献情報センターの設置に伴う各大学図書館の今後の業務のあり方について
東大文献情報センター・阪大図書館・九州芸工大図書館から発表

○分科会

第1分科会(運営・サービス)

①文献情報センター設置に伴う地域ネットワークの形成, ②学術情報センターの早期実現, ③図書館サービスにおける相互協力体制の制度化, ④学術雑誌の保存対策及び利用の共同化, その他

第2分科会(予算・人事)

①電算化推進・運用のための要員の研修, ②学術情報資源の確保充実, ③自然系外国雑誌購入費の削減回復, ④定年制の施行に伴う欠員不補充措置の緩和, その他

○全体会議

各分科会のとりまとめ

第16回 北海道地区国立大学図書館協議会総会

と き 昭和59年4月19日>

ところ 北見工業大学>

<協議事項>

1. 電算化推進・運用のための要員確保について
2. 学術情報システムに対する学内の対応策について
3. 第31回国立大学図書館協議会関係について
4. その他

また、当日あわせて地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議及び地区国立大学図書館情報処理ネットワーク協議会が開催され、それぞれ当面の問題について協議した。

なお、次期当番館は旭川医科大学に、理事館は北海道大学及び旭川医科大学に決定した。

第34回 北海道地区大学図書館協議会総会

本年度の地区大学図書館協議会総会は、旭川医科大学の当番により、8月21日(火)旭川ターミナルホテルを会場に開催された。22大学43名が出席し、慣例により当番館旭川医科大学星野館長を議長に選出し議事が行われた。

協議事項等は次のとおりである。

報告事項

1. 幹事館会議報告
2. 協議会運営資金昭和58年度決算報告及び同監査報告
3. 第27回北海道地区大学図書館協議会職員研究集会報告
4. 各館界の動向(国・公・私立大学)

協議事項

1. 本協議会の今後のあり方について
2. 北海道地区大学図書館職員研究集会要項(案)および同研究集会への加盟館以外の職員の参加に関する申合せ(案)について
3. 総会および研究集会経費の増額等について
4. 昭和59年度協議会予算(案)について
5. 第35回北海道地区大学図書館協議会総会および第28回北海道地区大学図書館職員研究集会の当番館について

総会は藤女子大学に、研究集会は北海学園大学に決定した。

学内だより

医療技術短期大学部図書室

医療技術短期大学部は、医療技術に関する高度の理論と技能を教授研究するとともに、豊かな教養と人格を備えた医療技術者を養成することを目的として、昭和55年10月に看護学科の設置をもって発足しました。その後、昭和56年4月に理学療法学科と作業療法学科が、昭和57年4月に衛生技術学科が、昭和59年4月に診療放射線学科がそれぞれ増設され、現在5学科をもって構成されています。

図書室は発足より1年半遅れ、昭和57年4月に開室（56年度には、若干の貸出業務は行われていた。）されました。総面積169m²のワンルームを、書庫スペース84m²、閲覧スペース72m²（閲覧座席数38席）、事務・整理スペース13m²と、3用に使った開架方式です。書庫スペースの収容可能冊数は1万4千～1万5千冊。毎年、夏期休業を利用し、増設された各学科の母体である医学部附属専修学校より、専門図書の管理換を行い、現在の蔵書冊数は1万4千冊（物品番号を取得していない教科書、資料等を含む）。開室3年目にして早や収容可能スペースは少なくなってきました。とはいっても、管理換によって増加した専門図書の中には、日進月歩に進歩してゆく医療技術に対応不適當な古い出版物も沢山あり、今後は新旧版を入れ変える等工夫を加え、小さくとも利用しやすい充実した図書室にして行きたいと考えています。

本学の教育課程は、医療技術者の養成という使命をもったものでありますので、講義、演習、実験および実習等過密になる面があり、学生が図書室を利用して勉強する時間が物理的に少なく、1日平均60～70名の入室者は、ほとんどが貸出か返却のために入室してくる者で占められています。それでも試験期には38の閲覧席が、いつも満席の盛況です。又2学年、3学年になりますと、病院等で直接行う臨床実習が課され、午前8時30分～午後5時30分くらいまでの実習日が週のうち3～4日あります。図書室の開室時間は平常午前9時～午後5時までですが、このような一部過密時間割や臨床実習を考慮して、図書室を利用する学生のために、週2回、月曜日と木曜日は午後6時まで開室を延長しています。これはこの図書室の特色の一つだといえるでしょう。

もう一つ特色があります。それは先に書きましたように、本学の目的である豊かな教養と人格を有し、医の倫理をわきまえた資質のたかい人材を育成するための一般教養書と、高度な専門知識と技術を修得するための基礎医学書とともに各学科の専門領域についての知識・技術書と、両面の要求を満たさなければならない点です。たとえば教養分館と医学部図書館を一つにしたような、すべての分野の資料の必要性です。規模は及びもしませんが、書架には分類番号0～9まで、あらゆる分野の図書が収録されています。もちろん専門図書室としての役割の方がより要求度は高く特にリハビリテーション関係の新しい医療技術は知識・技術書の資料も少なく、これからも収集に務めなければならないと考えています。

近年、医療技術者を養成する大学は、全国的にかなりの数にのぼっていますが、北海道では本学が一番最初の大学であり、北海道のセンター的期待も含めて、又専門図書室としての使命を踏まえ、よりいっそう頑張らなければいけないと思っています。

（医療技術短大図書室 金子 和 恵）

資料紹介

Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature. Segment II.

(ゴールドスミス=クレス文庫経済学文献集)

マイクロフィルム 経済学部所蔵

経済学部では昭和 55, 58 の両年度にわたり表記のマイクロフィルム・コレクションの一部を購入した。このコレクションは世界的に著名な、ロンドン大学のゴールドスミス文庫とハーヴァード大学のクレス文庫の、15 世紀から 1850 年までの図書、パンフレット類をマイクロフィルム化したもので、その作業は現在も進行中である。これまでに約 6 万点以上がフィルム化されたと言われている。本学部に収納されたのは、そのうちの図書の分 10,921 点で、出版年代の範囲は 1801 年から 1835 年の一部におよんでいる。

両文庫は、もともとイギリスの経済学者、H. S. フォックスウェル (1849-1936) の蒐集した文献を核につくられたもので、クレス文庫では現在もお精力的な蒐集活動が続けられている。フォックスウェルはケンブリッジ大学とロンドン大学での教育と、王立経済学協会や同統計学協会の仕事を通じてイギリス経済学の発展につくしたが、特筆すべき貢献は、やはり、その数十年にわたる社会科学文献の蒐集にあったと言える。以下、かれの蒐集目的によってかたちづくられた両文庫の一般の特徴を紹介する。

J. M. ケインズによるとフォックスウェルの蒐集病は、かれと親しかった W. S. ジェヴォンズから感染したものだという。無名の経済学書やパンフレットへの目くばりは、ジェヴォンズの意図したところであったが、これはフォックスウェルにもひきつがれている。フォックスウェルの当初の蒐集目的は『国富論』の資料の入手にあったという。このような、社会科学の父、A. スミスとのかかわりかたからも知られるように、その蒐集領域は、狭義の経済学に限られることなく、政治学、歴史、社会学をはじめとして、奴隷制、交通、都市ギルド、社史関係など、広範囲におよんでいる。もちろんイギリスの経済思想にかんする蒐集は完璧であり、フランスについても、市民革命期までのそれはきわめて充実している。イタリア、スペイン、ドイツ、オランダなどの文献にもすぐれた蒐集がみられる。これらのなかには、A. スミスをはじめ、A. ヤング、D. リカードなどの手沢本、さらに J. ロック、J. ベンタム、D. ヒューム、R. オウエン、R. ピール、W. ワーズワース、K. マルクスなどの所蔵本もふくまれている。

フォックスウェルにはリカード派社会主義にかんする有名な論文があるが、初期社会主義や労働組合運動の文献もまた偏見なく集められているのも大きな特徴である。さらに、往時ほとんど重視されず泡沫的とみなされていた多くの著作が丹念に集められていることも特記に値する。これらの多くはパンフレットの形態をとっており、今日、希覯資料として大きな価値をもつに至っている。なお、希覯文献の宝庫とも言えるパンフレット類の集成分は、昨年から刊行が開始された。

本経済学文献集の 1800 年までの図書の分は、北海道地区では北海学園大学が所蔵している。したがって、本学部未所蔵の 1835 年以降の図書の分と、上記パンフレット類のコレクションの新たな入手は、多くの関係者の熱望するところであろう。

(経済学部教授 佐藤 茂 行)

Ежегодникъ Императорскихъ Театровъ. Том.1-5, 7-18 & 1908/1909,
with Suppl. and "Журнал" (1909-1918/19), with Suppl. 41 vols.

(ロシア帝国劇場年鑑) 附属図書館所蔵

この(ロシア)帝国諸劇場年鑑は、1892年から1920年までペテルブルク(ペトログラード)で刊行されたものである。1908年までは年一回刊、1909年から1916年までは年3回ないし8回刊、一時中断後1920年一回刊の本巻18、及び補巻合わせて41冊からなるオリジナル版である。

19世紀末から20世紀初頭にかけてのロシアでは、象徴派をはじめとするいわゆるモダニズム文学が流行したが、それは演劇界にも及び、チューホフ劇の出現以外にも様々な実験が行なわれた。しかし、ロシア演劇は、19世紀初頭以来、文学と密接な関係を保ちながら帝国劇場の存在によって発展を見てきたのである。従って、世紀末からの新しい演劇活動は、1898年創立のモスクワ芸術座にしても、伝統的なロシア演劇の発展に支えられていたし、又、当時は伝統的演劇と新しい試みとが相互に影響し合っていた時期でもあった。事実、ロシア・バレエ団を組織して西ヨーロッパの演劇・音楽界に大きな影響を与えたS. P. デャーギレフも、一時期本年鑑の編集者をしていたのである。ところが、従来は世紀末～20世紀初頭の伝統的演劇活動に関する資料がまことに少なかった。

本年鑑は当時の演目、俳優の役柄、演出術のみならず、F. D. バーチュシコフ、P. P. バーチュシコフ、P. P. グネージチ、V. V. スターソフ、A. N. ヴェヌア、L. C. バクストといった批評史上に残る研究者や演劇人、画家、音楽家たちの、総合芸術としての演劇、バレエに関する論文、概説、エッセイや、演劇、音楽関係者の伝記、回想録(一例をあげれば、「農奴俳優たち」1911、「帝室ペテルブルク演劇学校における25年間の演劇講座」1914-15)、さらには当時の舞台装置や衣裳等の図版、挿絵を豊富に収録している基本的、かつ重要な資料であって、今後の研究に大いに役立つものと期待される。

(文学部助教授 灰谷 慶三)

◆ 電算化準備ニュース

図書館業務電算化委員会の設置について

全国的規模で推進する学術情報システム構想における本学の対応は、すでに昭和53年4月北海道大学学術情報調査研究会の発足により開始された。昭和55年3月、調査研究会から学長に対する答申「学術情報体制に関する基本的方策について」のなかで、本学図書館の位置づけと図書館情報処理の早急な対応の必要性についてふれ、以来、本学における学術情報システムの具体化について各分野から検討がすすめられてきた。とくに、「図書館情報の収集、蓄積、管理、検索、利用システムの構築について」(北海道大学学術情報システム準備検討委員会—図書館情報専門委員会中間報告、及び「……具体化について」の答申)は、本学における図書館の今後のあり方を示す重要な提言である。

これらの検討とあわせ、全学の図書系職員による図書館業務電算化の準備は、図書館業務機械化ワーキング・グループによる業務分析を基礎に、昭和58年12月、全学図書(担当)掛長会議において「北海道大学図書館業務電算化基本計画」の策定をみるに至った。この「基本計画」は、文献情報センターシステムを指向しつつ、図書館業務の全般について全学的なシステム化を目標

とするものである。学内各部局の協力によって本学図書館の電算化を昭和60年1月を日途として準備するよう下記「要項」によりその体制をとり図書業務電算化委員会、システム開発準備部会をそれぞれ発足させた。

北海道大学における図書業務電算化の体制に関する要項

(昭和59年6月25日制定)

(設置)

- 1 北海道大学における図書業務の電算化を円滑に進めるため、図書業務電算化委員会(以下「電算化委員会」という。)を置き、電算化委員会にその業務を分担させるため次の部会を置く。

- (1) システム開発準備部会(以下「準備部会」という。)
- (2) システム設計実施部会(以下「実施部会」という。)

(組織)

- 2 (1) 電算化委員会は全学の図書系掛長以上の職にある者及びその他の者を以て組織し、館長が委嘱する。
- (2) 準備部会は全学の図書系職員のなかから館長が委嘱する者を以て組織し、予算班、図書班、雑誌班、閲覧班を置く。
- (3) 実施部会は全学の図書系職員のなかから館長が委嘱する者を以て組織する。

(委員会等の任務)

- 3 各委員会等の任務はそれぞれ次のとおりとする。
- (1) 電算化委員会
図書業務電算化に係る基本方針の検討及び策定、部局間の連絡調整に当る。
- (2) 準備部会
電算化委員会の意を受け、システムの基本設計及び機種選定のための予備作業に当る。
- (3) 実施部会
システム設計及び稼動に至るまでの諸準備に当る。

(責任者)

- 4 電算化委員会は附属図書館事務部長が責任者となって会を運営し、整理課長及び閲覧課長がこれを補佐する。準備部会及び実施部会の責任者は閲覧課長とし、閲覧課長補佐及び図書館専門員がこれを補佐する。

(事務)

- 5 この要項に定める委員会等の運営に関する事務は、附属図書館閲覧課学術情報掛がこれに当る。

(雑則)

- 6 図書業務機械化ワーキンググループは解散する。

図書業務電算化委員会の構成

附属図書館		整理課課長補佐	遠藤 雄作
◎事務部長	松川 衛	閲覧課 "	平田 忠夫
○整理課長	佐藤 繁好	図書館専門員	杉尾 勝茂
○閲覧課長	石川 雅夫	庶務掛長	成田 稔

会計掛長	嶋崎 功	工学部図書整理掛長	達 昭三
受入 "	佐藤 透	" 図書閲覧 "	和田 章憲
整理 "	山本 幾夫	農学部図書掛長	関根 正宏
雑誌 "	黒田 泰行	農場会計掛長	鈴木 光夫
教養分館整理 "	庄司 重陽	演習林 "	鈴木 進
閲覧掛長	宇野 弘純	獣医学部図書掛長	岡本 憲吉
参考調査 "	山口 國雄	水産学部図書掛長	荒木 修
学術情報 "	高砂 慶	環境科学研究科	山田 勉
教養分館閲覧 "	星賀 隆	低温研図書掛長	矢野 誠
文学部図書掛長	田中 一郎	応 電 研	吉田由貴子
教育学部 "	清水 明	触 媒 研	村木あさ子
経済学部 "	輪木 安雄	免疫研会計掛長	渡辺 昭
理学部 "	船木 敏美	大型計算機センター "	竹内 淳二
医学部図書整理掛長	坪田 充弘	医療技術短大	金子 和恵
" 図書閲覧 "	藤島 隆	スラブ研究センター	秋月 孝子
歯学部図書掛長	堅田 政孝		計 39 名
薬学部 "	桜庭 恒弥	◎責任者	○補佐役

システム開発準備部会の構成

附属図書館		附属図書館	
◎閲覧課長	石川 雅夫	△ 雑誌掛長	黒田 泰行
○閲覧課課長補佐	平田 忠夫	" 雑誌掛	富田 健市
○図書館専門員	杉尾 勝茂	農学部図書掛	紙屋 国男
<予算班>		工学部図書整理掛	松野とも子
附属図書館		医学部 "	東 重俊
△ 会計掛長	嶋崎 功	<閲覧班>	
" 受入掛	小笠原敏明	附属図書館	
工学部図書整理掛	羽川 明	△ 閲覧掛長	宇野 弘純
理学部図書掛	福盛田 勉	" 閲覧掛	清水 弘
文学部 "	山田 達雄	" 閲覧掛	井手上恵子
<図書班>		" 教養分館閲覧掛	三浦 智
附属図書館		工学部図書閲覧掛長	和田 章憲
△ 受入掛長	佐藤 透	経済学部図書掛	岡田 潔
" 整理掛	岩本 攻	<事務局>	
" 参考調査掛	小西 和信	附属図書館	
" 教養分館整理掛	加徳 健三	学術情報掛長	高砂 慶
低温研図書掛長	矢野 誠	" 学術情報掛	諏訪田義美
工学部電気図書室	山田 紀子		計 27 名
<雑誌班>		◎責任者	○補佐役
			△班長

電 算 化 準 備 記 録

昭和53年～59年8月

年月日	事 項	年月日	事 項
53・4・19	「北海道大学学術情報調査研究会」設置	57・2・16	学術情報処理と漢字入出力（大型計算機センター）5名参加
55・3・6	同研究会，学長宛答申	57・2・20	第7回準備検討委員会
56・4・11	VOSOKEIS（漢字システム）説明会（大型計算機センター）5名参加	57・3・1	第7回ワーキンググループ委員会
56・7・15	「北海道大学学術情報システム準備検討委員会」（以下，準備検討委員会）設置	57・3・8	準備検討委員会から学長宛 第一次答申「北海道大学における学術情報システムの具体化について」
56・7・31	データベースマネジメントシステムMO	57・4・1	附属図書館閲覧課に学術情報掛新設
～8・7	DEL204 説明会（大型計算機センター）7名参加	57・4・9	第14回北海道地区国立大学図書館協議会（於，小樽商大）「北海道地区における学術情報システムの協力体制について」決議
56・8・5	図書館業務説明会（工学部，昭和情報機器）8名参加	57・4	電子計算機設置概要要求
8・12		57・8・24	昭和57年度北海道地区国立学校事務電算化担当職員研修，1名参加
56・8・26	昭和56年北海道地区国立大学図書館職員研修（28名）	～9・2	
56・8・29	アダバスについての説明会（15名）	57・9・7～10	ベーシック言語プログラム講習会（11名）
56・9～	昭和56年度筑波大学学術情報処理研修，1名参加	57・10・1	昭和57年北海道大学図書館職員講習会（47名）
56・9・7	第1回準備検討委員会	57・10・21	「北海道地区国立大学図書館情報処理ネットワーク協議会」（以下，ネットワーク協議会）設置，下部組織として，「図書館業務機械化開発専門委員会」（以下，開発専門委員会）設置。同日，第1回ネットワーク協議会。（於，小樽商大）
56・10・13	第2回準備検討委員会	57・10・26	MARC の利用と冊子目録編集の実際（講習会）（51名）
56・10・21	第3回準備検討委員会，専門委員会として，「データベース専門委員会」と「図書館情報専門委員会」を設置	57・11・9	第8回ワーキンググループ委員会
56・10・27	第1回図書情報専門委員会	57・11・15～16	ベーシック言語プログラム講習会（28名）
56・10・28	第1回データベース専門委員会	29～30	
56・10・7	第2回データベース専門委員会	57・11・18	INQ 説明会（15名）
56・11・11	第2回図書情報専門委員会	57・11・26	第1回開発専門委員会
56・11・24	第3回図書情報専門委員会	57・12・14	電算機講習会（名大事例とLIMS）（28名）
56・11・26	第3回データベース専門委員会	58・3・10	第1回情報処理研究発表会（情報処理教育センター）5名参加
56・12・9	第4回図書情報専門委員会	58・3・11	第9回ワーキンググループ委員会
56・12・10	「図書館業務機械化ワーキンググループ」（以下，ワーキンググループ）発足	58・3・18	第2回開発専門委員会
56・12・12	第4回データベース専門委員会	58・4	電子計算機設置概要要求
56・12・16	第1回ワーキンググループ委員会	58・4・18	開発専門委員会札幌地区打合せ会議
56・12・24	第4回準備検討委員会	58・4・21	第2回ネットワーク協議会
56・12・25	第2回ワーキンググループ委員会	58・5～	昭和58年度筑波大学学術情報処理研修，1名参加
56・12・28	第5回データベース専門委員会	59・2	
57・1・8	第3回ワーキンググループ委員会	58・7・8	第10回ワーキンググループ委員会
57・1・11	第5回図書情報専門委員会	58・7・21	FACOM 9450-II パソコンセミナー（富士通）7名参加
57・1・12	第6回図書情報専門委員会	58・7・29	第11回ワーキンググループ委員会（図書館統合システム ILIS について）
57・1・14	第6回データベース専門委員会		
57・1・19	第5回準備検討委員会。データベース専門委員会，図書情報専門委員会，各中間報告発表		
57・1・29	第4回ワーキンググループ委員会		
57・2・3	第5回ワーキンググループ委員会		
57・2・6	第6回準備検討委員会		
57・2・15	第6回ワーキンググループ委員会		

年月日	事 項	年月日	事 項
58・9・5 ～14	昭和58年度北海道地区国立学校事務電算化担当職員研修, 1名参加	59・4・19	第3回ネットワーク協議会 (於, 北見工大)
58・9・28	昭和58年北海道大学図書館職員講習会 (41名)	59・5・9	第8回準備検討委員会
58・10・19	第12回ワーキンググループ委員会 (コンピュータの導入にあたって, 日本電気)	59・6・19	第14回ワーキンググループ委員会
58・11・7	全学図書 (担当) 掛長連絡会議, 「北海道大学図書業務電算化基本計画 (案)」提示	59・6・22	全学図書 (担当) 掛長連絡会議, 「北海道大学における図書業務電算化の体制に関する要項 (案)」承認
58・11・9 ～18	昭和58年度国立学校事務電算化基幹要員研修会 (A) 1名参加	59・6・25	ワーキンググループ解散, 「図書業務電算化委員会」「システム開発準備部会」(以下, 準備部会) 発足
58・11・25	第3回開発専門委員会	59・7・18	第1回準備部会
58・12・7	全学図書 (担当) 掛長連絡会議, 「北海道大学図書業務電算化基本計画 (案)」承認	59・7・25	準備部会 (雑誌班, 第1回)
59・1・20	専門図書館における JAPAN/MARC の共同利用実験説明会 (専門図書館北海道地区協議会) 7名参加	59・7・27	〃 (図書班, 第1回)
59・1・24	第13回ワーキンググループ委員会	59・8・2	〃 (雑誌班, 第2回)
59・2・14 ～15	FACOM OS IV AIM 入門 (富士通) 3名参加	59・8・8	〃 (図書班, 第2回)
59・3・1	第2回情報処理研究発表会, 8名参加	59・8・10	〃 (閲覧班, 第1回)
59・3・10	「図書業務機械化ワーキンググループ中間報告書」公表	59・8・14	〃 (雑誌班, 第3回)
59・3・14	第4回開発専門委員会	59・8・16	〃 (図書班, 第3回)
59・3・14	文献情報センターと機械化開発専門委員会との懇談会 (40名)	59・8・21	〃 (閲覧班, 第2回)
59・4	電子計算機設置概算要求	59・8・22	〃 (予算班, 第1回)
		59・8・24	〃 (図書班, 第4回)
		59・8・27	〃 (予算班, 第2回)
		59・8・28	〃 (閲覧班, 第3回)
		59・8・30	開発専門委員会札幌地区打合せ会議
		59・8・31	準備部会 (雑誌班, 第4回)

◆ 研 修

第27回 北海道地区大学図書館職員研究集会

<と き 昭和59年8月3日 (金)>

<ところ 北海道大学法文系共同講義棟番教室>

本年度の研究集会は, 当地区 21 大学 121 名が参加して次のように行われた。
「研究発表」

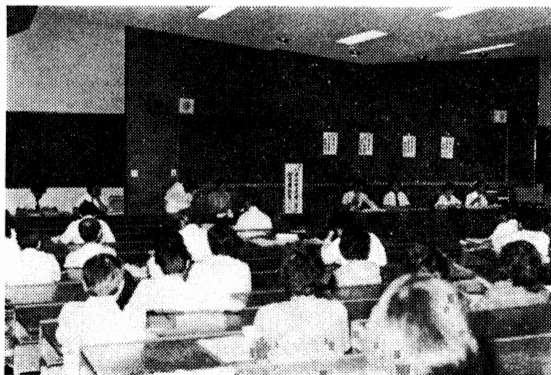
	司会	北海道大学	星 賀 隆
	〃	北海道工業大学	五十嵐 武義
症候群 (Syndrome) を調べる		札幌医科大学	福 井 堅 一
		〃	野 口 迪 子
図書館とデータベース		北海道大学	高 砂 慶
欧米の図書館利用者教育の動向		北海道教育大学	佐 藤 貞 司

「パネルディスカッション」

～利用者教育について～

司 会	札幌医科大学	尾 崎 恵 子
”	北海道教育大学	寒 河 江 瑛 子
記 録	小樽商科大学	柳 田 実
”	酪農学園大学	今 野 穂
パネラー	北海道教育大学	松 村 貢
	札幌学院大学	岡 田 煌 子
	旭川医科大学	山 口 直 比 古
	北見工業大学	佐 藤 清 一

以上のとおり、猛暑のなか、各参加者とも終始熱心に傾聴し、活発な質疑応答が交され、有意義かつ盛会裡に終了した。企画委員各位ならびに関係各位の熱意と協力に対し心から謝意を表するものである。



昭和 59 年度 「大学図書館職員長期研修」を終えて

附属図書館整理課受入掛 小 笠 原 敏 明

本研修会受講にあたっては、何か一つでも吸収できればと思って参加しました。

まず、型どおりですが本研修会の概略を紹介いたします。

この研修会は今年で16回目を迎え、7月30日から8月18日までの三週間、図書館情報大学を主会場に、筑波大学・東京大学・東京工業大学等で開催され、一週目と三週目は筑波地区、二週目は東京地区において講義（理論・演習）、見学、共同研究討議と多彩なプログラムが組まれていました。

この研修の目的は「教育・研究活動の急速な進展、また、情報の氾濫の中で利用者の高度な要求に迅速に応えられる情報提供体制を整備し、学術情報にかかわる諸情勢の発展、知識・技術の開発の現状について最新の知識を習得し、資質の向上を図ること」にあります。

受講者は、国立33名、公立1名、私立4名の計38名（男性21名、女性17名）で、直接、間接を問わず、何らかの形で電算化に参画している、また、しなくてはならない、現場の担当者が主でした。

それぞれの講義内容および講師の方々の「講義要綱」は、参考閲覧室の図書館学資料コー

ナーに備え付けられておりますので、一読願ひ、ここでは印象深く焼きついていることについて述べて見たいと思います。

その一つは「共同研究討議」です。これは二回あり、一回目は、事前に提出した「発言要旨」により、一同に会して進められ、二回目は、受講生を9~10名の4班に分け、各班にチェアマンと記録者をおき、ディスカッションをし、最終日にまとめの報告をするという方式で行われました。私は、与えられた4つのテーマの中から検討テーマを選び円滑に討議を進め報告をする大役を仰せつかり、どのように進行していくか苦慮しましたが、結局わが班が選んだテーマは「図書館業務の電算化についてとりわけ、ハウス・キーピングを考える一」でした。最初、各館の現状を発表してもらい討議に入っていたが、様々な意意が出され、限られた時間内での結論を要約すると、

1. 今や、電算化を避けては通れない状況にある。
2. 電算化にあたっては、図書館員自身、研究会、研修会を行い、業務について緻密な分析及びシステムについての十分な知識を得ることが必要である。
3. 電算化を推進するにあたっては、先行館のシステムを基によりよい図書館システムを構築し、かつ、個々の館の特色を生かせるシステム作りをする。
4. 業務の電算化については、外国雑誌の一括購入システム等、各館の事情に応じて進められているが、図書館業務をトータルに捉え、学術情報システムが十分その真価を発揮できるように各館が努力していくべきである。
5. 利用者の為のシステムであることを常に心掛け、また、利用者に対する電算化のアピールを忘れてはならない。
6. まとめとして、学術情報システムを実りあるものとしていくために、大学図書館間の相互利用の発展に努めなければならないし、また、我々は協力を惜しまない。

ということになったのですが、少し出来過ぎの感があります。何はともあれ、メンバーの協力によって無事、最終報告が出来たことはこの研修の一つの成果(自分なりの解決で……)と言えるでありましょう。

生活面から言うと、宿泊施設の快適さも然る事ながら、レクリエーション施設が開放され、ソフトボール、テニス、プール等、用具の貸出しに便宜を計っていただいた。特に、ソフトボールでは、過去、受講生に負けたことがないという強豪、図書館情報大学チームを負かすことができ、これも日夜(一説には毎夜)のミーティングと練習の賜であり、人的ネットワークの方が、学術情報システムより一足先にラインがつながり、今後の情報交換に大いに役立つものとなるでありましょう。オリンピック、高校野球、海だ、山だと浮かれている時に昼夜を問わずミーティングを重ね、相互協力の精神をもって何事にも対処し、多くの友を得られたことは、何物にもかえがたい成果と言えます。

私がタイトルに「参加して」ではなく「終えて」としたのは、例年にない酷暑の中、脱落することなく無事終了することが出来た為であり、本当に参加出来て良かったと思うからです。

最後になりましたが、文部省、図書館情報大学、講師の皆様方ならびに見学先の各機関の皆様方、大変お世話になりました。この誌面をおかりしてお礼申し上げます。また、研修参加の機会を与えて下さいました職場の皆様方、本当にありがとうございました。

附属図書館増築工事の竣工と館内移転等の予定について

かねてより施工中の当館増築工事は、お蔭をもちまして9月26日竣工、同29日引き渡しを受けました。

これもひとえに各位の御協力によるものと深く感謝申し上げる次第でございます。

また、これに伴い今後関係各室の移転および書庫内等図書の移動が必要であり、1カ月余の準備期間をおいて11月中旬頃からそ作の業に入る予定でありますので、引き続いて御協力をお願いいたします。

なお、移転等作業開始までは、従前どおり御利用いただきます。

◆ 統 計

部 局 別 蔵 書 冊 数

(昭和59年3月31日現在)

部 局 区 分	和 書	洋 書	合 計	備 考
附 属 図 書 館	409,648	279,862	689,510	法学部を含む
教 養 分 館	84,028	18,058	102,086	教養部・言語文化部を含む
文 学 部	78,318	107,463	185,781	
教 育 学 部	52,921	22,353	75,274	
法 学 部	(52,407)	(93,464)	(145,871)	
経 済 学 部	42,261	34,892	77,153	
理 学 部	44,876	125,937	170,813	
医 学 部	78,870	92,416	171,286	附属病院を含む
歯 学 部	11,229	10,753	21,982	〃
薬 学 部	4,096	11,549	15,645	
工 学 部	158,359	126,509	284,868	
農 学 部	176,838	98,770	275,608	農場及び演習林を含む
獣 医 学 部	9,244	17,740	26,964	
水 産 学 部	65,015	39,044	104,059	
教 養 部	(10,675)	(4,252)	(14,927)	
言 語 文 化 部	15,855	8,140	23,995	
環 境 科 学 研 究 科	(4,126)	(7,916)	(12,042)	
低 温 科 学 研 究 所	6,231	2,576	8,807	
応 用 電 気 研 究 所	5,706	12,947	18,653	
触 媒 研 究 所	4,726	12,941	17,667	
免 疫 科 学 研 究 所	2,862	9,075	11,937	
ス ラ ブ 研 究 セ ン タ ー	1,344	6,122	7,466	
大 型 計 算 機 セ ン タ ー	(1,937)	(27,103)	(29,040)	()内は附属図書館に管理
事 務 局	1,023	11,443	12,466	換分
学 生 部	821	847	1,668	
医 療 技 術 短 期 大 学 部	1,815	151	1,966	
計	621	97	718	
	8,942	1,108	10,050	
計	1,265,629	1,050,793	2,316,422	

昭和58年度 部局別図書・雑誌受入冊数

区 部 局	図 書							雑 誌						
	和 書			洋 書			計	和 書			洋 書			計
	購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他		購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他	
附属図書館	4,638	1,385	1,972	4,594	597	1,256	14,442	393	3,023	—	473	531	—	4,420
教養分館	3,297	78	163	2,797	4	38	6,377	234	25	—	193	1	—	453
文学部	4,525	39	643	4,374	35	347	9,963	279	911	5	502	3	—	1,700
教育学部	2,603	53	512	820	—	92	4,080	215	496	—	188	—	—	899
法学部	(1,624)	(30)	(684)	(2,994)	(172)	(1,390)	(6,210)	(242)	(481)	(—)	(301)	(33)	—	(1,057)
経済学部	1,929	478	906	1,837	116	889	6,155	154	683	1	231	54	1	1,124
理学部	422	6	342	1,306	52	2,815	4,943	121	357	3	802	229	9	1,521
医学部	929	48	561	722	22	1,662	3,944	235	449	—	696	66	2	1,451
歯学部	539	—	297	180	6	275	1,297	130	124	—	208	30	—	492
薬学部	145	33	38	59	—	567	842	24	45	—	107	3	—	179
工学部	2,456	64	1,541	1,212	20	1,779	7,072	342	899	9	766	35	1	2,055
農学部	2,334	15	847	725	19	1,102	5,042	484	546	942	189	8	6	2,175
獣医学部	131	8	160	171	11	352	833	32	182	—	145	147	1	507
水産学部	1,102	442	583	203	39	1,242	3,611	337	994	2	283	394	9	2,019
教養部	(219)	(—)	(10)	(230)	(—)	(—)	(459)	(42)	—	—	(102)	—	—	(144)
言語文化部	(862)	(—)	(28)	(2,488)	(1)			(35)	—	—	(80)	—	—	(115)
環境科学研究科	666	—	—	328	2	190	1,186	33	82	—	140	35	—	290
低温科学研究所	46	1	110	86	—	380	623	38	290	2	84	183	1	598
応用電気研究所	140	—	23	215	—	259	637	27	56	2	119	10	—	214
触媒研究所	16	4	30	101	5	302	458	14	7	—	51	23	1	96
免疫科学研究所	40	—	—	64	—	266	370	14	102	—	54	—	—	170
スラブ研究センター	18	—	34	3,028	8	75	3,163	4	135	1	119	45	1	305
大型計算機センター	33	—	—	31	—	—	64	26	34	—	—	—	—	60
事務局	13	—	—	2	—	—	15	138	2	—	—	—	—	140
学生部	—	—	—	—	—	—	—	25	—	—	—	—	—	25
医療技術短期大学部	1,108	—	252	251	—	95	1,706	78	41	—	38	—	—	157
合 計	27,130	2,654	9,014	23,106	936	13,983	76,823							

昭和58年度 附属図書館利用統計

閲覧室名 開館日数 利用部局等	書庫出納カウンター		開架図書室 館外貸出	語学 演習室	参 考 書 室	北 方 資 料 室	合 計
	館内閲覧	館外貸出					
	272日	272日	261日	272日	272日	235日	
文 学 部	348人	952人	2,496人	62人	1,765人	263人	
教 育 学 部	45	135	484	13	285	52	
法 学 部	412	1,479	4,002	137	534	49	
経 済 学 部	59	199	1,187	41	409	32	
理 学 部	19	32	1,850	23	147	35	
医 学 部	1	2	307	12	45	11	
歯 学 部	4	7	268	2	31		
薬 学 部	6	7	466		25	4	
工 学 部	19	28	1,215	2	168	48	
農 学 部	18	50	942	8	152	78	
獣医学部	3	1	106		13	5	
水産学部	2		4		8	11	
教 養 部	158	309	4,131	8	568	43	
各 研 究 所					138	67	
医 療 技 術 部	4	5	472	4	7		
短 期 大 学	134	3,172	501	21			
教 官	93	2,446	1,507	114			
院 生	66	278	1,159	21			
職 員	289	384	71		217	733	
学 外 者							
利用者合計	1,680	9,486	21,168	468	4,508	1,431	44,090人
利用冊数	3,762	29,368	28,957	506 ^巻	166 ¹⁾	884 ²⁾	63,137冊 506巻

注 1) 国連資料, OECD 資料, EC 資料, 図書館学資料のみ (参考図書は貸出ししない)

2) 館外貸出冊数 (室内利用は含まず)

3) 参考図書室については, 教官・職員・学生こみの人数

4) 北方資料室については, 教官・学生こみの人数

昭和58年度 文献複写・相互利用統計

I. 国内: 附属図書館参考調査掛を経由して学外へ依頼した件数 (国立・私立とも)

申込部局	附 属 図書館	法学部	文学部	教育学部	経済学部	理学部	医 短	歯学部	薬学部	スラブ
件 数	23	389	241	45	17	5	1	—	5	12
申込部局	農学部	獣医学部	水産学部	教養部他	環境科学 研究科	低温 研究所	応 電 研究所	触 媒 研究所	免 疫 研究所	合 計
部 局	20	8	1	25	214	1	41	14	11	1,072

II. 国内：新方式（国立大学等図書館相互における文献複写）で各部局図書掛等が受付・依頼を行った件数

部局	附属図書館	文	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	低温	合計
受付	2,070				1,363		82	724	1,249	505	367	123	6,483
依頼	551	246	206	603	897	117	63	380	178	86	355	41	3,723

III. 国外への依頼件数（参考調査掛）666件（米346, 英169, 西独92, オーストリア17, カナダ11, オランダ7, ソ連7, その他17）

IV. 図書館間相互貸借（参考調査掛）○他館への貸出 271件 ○他館からの借用 152件

V. 附属図書館マイクロ電子・複写業務実績（館内分を除く）

複写数 申込者	件数 ^注 (件)	複写論文 点数 (点)	処理枚数・コマ数					
			総数	内訳				
				電子複写 (枚)	マイクロ フィルム (コマ)	マイクロ フィッシュ (枚)	引伸焼付 (枚)	リーダー プリンター (枚)
学内者	401	831	46,354	4,555	3,641	—	—	38,158
学外者	3,228	4,406	55,719	54,390	30	—	—	1,299
合計	3,629	5,237	102,073	58,945	3,671	—	—	39,457

注）件数は申込延人数と同じ。（複写不能分を含まず）

VI. 問い合わせ件数（参考調査掛）

1. 問い合わせ内容別

合計	1,669	文献所在調査	1,519	書誌調査	33	事項調査	119
----	-------	--------	-------	------	----	------	-----

2. 問い合わせ部局別

文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水	環	養	低	応	触	免	事	医短	学外	合計
31	30	46	30	188	100	19	18	208	175	23	41	29	5	20	7	11	2	23	5	658	1,669

昭和58年度 教養分館利用統計

（開館日数 278日）

利用部局等	閲覧室等名	開架図書室		語学演習室		ビデオ視聴室	
		館外貸出					
文学部		1,630冊	1,011人	16巻	16人	21巻	14人
教育学部		225	134	1	1	2	2
法学部		639	369	72	72	64	50
経済学部		368	232	53	50	13	13
理学部		2,163	1,337	6	3	23	21
医学部		467	309	31	30	72	54
歯学部		144	87	1	1	6	5

閲覧室等名 利用部局等		開架図書室		語学演習室		ビデオ視聴室	
		館外貸出					
薬学部	234冊	158人	0巻	0人	5巻	4人	
工学部	2,009	1,307	16	15	44	42	
農学部	332	210	6	6	32	24	
獣医学部	223	120	1	1	13	11	
水産学部	13	7	0	0	2	1	
教養部	35,838	22,569	498	459	1,564	1,389	
医療技術部	503	310	1	1	6	6	
短期大学部	5,015	560	8	6	27	20	
教職官	467	267	240	236	17	14	
院生	720	458	17	17	15	14	
職員	21	15	150	90	1	1	
学外者							
合計	51,020	29,460	1,117	1,004	1,927	1,685	

昭和58年度 教養分館分類別館外貸出統計

類別	0	1	2	3	4	5	6
冊数	744	3,238	275	4,849	2,330	18,841	1,214
類別	7	8	9	文庫・新書	雑誌		合計
冊数	1,262	6,322	4,713	6,954	278		51,020

◆ 受贈図書

本学教官著作物受贈図書リスト (59. 8. 31 現在)

本学教官著作物

〔本館〕

○文学部

田中 彰 「脱亜」の明治維新一岩倉使節団を追う旅から [NHK ブックス]

○法学部

五十嵐 清 「民法と比較法」 [一社社]

○医学部

石井慶蔵・中園直樹 Epidemiology of rubella and its prevention [Hokkaido Univ., School of Medicine]

小林 博 腫瘍学 [南山堂]

○獣医学部

菅野 富夫 Brain-gut axis [Biomedical Research Foundation]

○言語文化部

中村 健之介 ドストエフスキー 生と死の感覚 [岩波書店]

○応用電気研究所

安藤 毅 (訳)

Collected papers of V. P. Potapov

I. V. Kovalishina & V. P. Potapov: Integral representation of Hermitian positive functions

◇ 人 事 往 来 ◇

○図書館委員会委員

木 谷 勝 (工学部教授) 59. 6. 1
 中 村 耕 二 (教養部助教授) 59. 8. 1
 山 下 格 (医学部附属病院教授) 59. 9. 16 (再任)

○配置換・転任等

新 関 教 子 経済学部図書掛 (歯学部図書掛) 59. 9. 1
 藤 沢 一 教 理学部用度掛 (経済学部図書掛) 59. 9. 1

○採 用

浦 田 雅 子 整理課庶務掛 59. 9. 1

○退 職

片 野 慈 子 整理課庶務掛 59. 8. 31
 沓 掛 裕 子 理学部数学科 59. 9. 5

あ と が き

昭和42年に第1号を発行したこの「楡蔭」は、今日まで決して順調な歩みを示した訳ではなく、途中多少の曲折があったことはいうまでもない。ここ数年は中央図書館のニュース偏重のきらいがあったことへの反省も含め、編集委員に部局からも加わってもらい新たな陣容で63号をお届けすることとなった。今後は部局図書室のニュースも積極的にとりあげていきたいと考えているので、各位の御協力をお願いする次第である。本誌に対する御意見・御希望があればぜひお寄せいただきたい。

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 (通巻63号)

1984年10月25日発行 発行人 松川 衛

編集委員 杉尾勝茂(長)・成田 稔(図)・山口國雄(図)・高砂 慶(図)・藤島 隆(医)・岡田 潔(経)
 松野とも子(工)

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 電話代表 716-2111 (2967)

印刷所 文栄堂印刷所 札幌市中央区北3条東7丁目 電話代表 231-5560・5561